

2015年2月13日掲載

「未来はひとつじゃない」

先日、小樽市内の小学校5・6年生を対象にキャリア教育の授業をした。6年生には模造紙に将来の夢を書いてもらった。看護師、デザイナー、体操選手など具体的な仕事から、ユーチューバー（動画を公開し、広告収入で生計を立てている人）と書く児童もいた。時代の流れとともに仕事の数や質が変化していると感じる。将来就きたい仕事を選ぶのは本当に大変なことである。

私がこうした授業を通して自分の経験から伝えているのは、「何か自分の好きなことを一生懸命取り組む」ことだ。小さい頃、旅番組のリポーターに憧れて旅行が好きになった。そこから大学では地理学を専攻し、各地のことを伝えたいと考えてアナウンサーを目指した。テレビ局を退職後も、旅行が好きだということから学生に地理の授業を教えたり、旅行に関する授業プログラムなどを提案したりしている。芯になる好きなものがあれば、次にできることややりたいことも見えてくる。未来はいくつものことができるのだ。

私たちには「答えはひとつ」という価値観の枠組みがあるように思う。算数で $1 + 1 = \square$ と聞かれれば確かに答えはひとつしかない。しかし、 $\square + \square = 8$ であれば整数、小数、分数も使って何通りも答えられる。

将来の夢はひとつではなくても良い。子どもたちが小さいうちから様々な仕事に触れ、その中から興味のある分野の仕事に就き、将来やりがいを持って働けることを願っている。

（毎日新聞より）